



<p>【ミッション】一人一人のニーズを把握し、持てる力を伸ばし高める教育を行う。                  ・社会の変化や生徒の障害の状態に応じた適切な教育的支援を行う。                  ・一人一人の実態やニーズに応じた多様な進路選択に努める。                  ・特別支援教育の専門性向上のため研修の充実を図り、地域における特別支援教育のセンター校としての 機能・役割を果たす。                  ・地域との交流、地域の学校との交流、国際交流などを通して本校教育活動の充実を図り本校のことを より知ってもらえるよう情報発信に努める。</p>	<p>A:3.2 ~ 4.0 《3.2以上 ピンク》                  B:2.4 ~ 3.2未満 《3.0以上 黄》                  C:1.6 ~ 2.4未満 《2.6未満 青》                  D:1.6 未満</p>
--	--

重点目標	実践目標	職員		生徒		保護者		自己評価(達成状況)	学校関係者評価(学校評議員より)	改善の方法
		自己評価結果	ABC評価	自己評価結果	ABC評価	自己評価結果	ABC評価			
(1)「職業科」設置校としての進路指導の充実と生きる力の育成	① 学校、寄宿舎、家庭(施設)での規律ある生活を通じて、社会人として自立するために必要な生活習慣を身につける。	2.9	B	3.3	A	2.9	B	<p>・生徒は日常の挨拶やマナー・ルールを守る態度は向上し、生徒たちも規律ある生活をきちんと理解して取り組んでいる。                      ・自分の思いを伝える力、自己管理能力の育成について昨年度より向上し、トラブル発生時には、他者と共に協力して解決する姿が見られるようになった。                      ・生徒は何事にも意欲的に取り組もうとし、目標をたて、主体的に取り組んでいる状況が見られる。                      ・例年、生徒や保護者は進路や将来について不安を感じているが、進路指導部や学年からの丁寧な情報発信や生徒の状況に合わせた適切な相談を十分に活用できていた。</p>	<p>【生徒の生活習慣の向上】                      ○教員・保護者と生徒の評価の差が大きい(生徒の評価がより高い)項目として「マナーやルールを守ることができていますか」「金銭を自分で管理して使うことができますか」の2項目が挙げられる。この差は経年変化を見てもあまり変わっていない。挨拶などのように種類が限定的で場面が具体的に挙げられるものと異なり、これらの課題については、教員・保護者の思う範囲や種類と生徒とでは差があるのではないかと。例えば、守るべきマナーやルールを明示することで生徒自身の評価がより具体的になり、差が縮小するのではないかと。                      ○「職員」は母集団の変化(異動)が相対的に少なく、また評価の経験値が高いため、基準値として考えられるものとし、その比(欄外で計算)を「職員評価(Teachers' Assessment、以後TA)」として、以降の考察に用いてみる。                      「生徒」の自己評価(3.3、A)は、TAは+14.3%であり、生徒が考えるほど高い段階には達していない。「保護者」のTA+1.7%は「職員」評価と大きく変わらず、引き続き「生徒」の自覚を促す指導が必要と考えられる。                      ○規則正しい生活、集団生活でのマナーを習得する。卒業後の学生の時とは違う誘惑などについても事前に知識として教えておくことも大事なのではないのでしょうか。ルールを守るという評価で保護者、教員と生徒の評価が大きくかけ離れている点が気になります。                      ○挨拶などの日常の生活習慣や他人と協調する力は高いですが、自分のことを他人に相談したり、自分の意見を主張したりすることに弱さがありそうです。また、自分の人生を前向きに捉え、計画的に物事を進める力は向上してきていると思われます。今後、他人に配慮することと同時に、自分の気持ちを伝える力も高められるように、コミュニケーションのロールプレイや自分の意見を発表する機会などがあれば良いように思います。                      ○生徒自身の評価が少し高い、職員様と家族様の評価が同一なので、生徒様の意欲を落とさず成長いただく。                      ○寄宿舎で集団生活のルールを教え、自分のことは自分で出来るように生活習慣を身につけたことは、指導いただいた先生方に感謝しかありません。                      【生徒のキャリアプランニング】                      ○生徒は、「何事にも意欲的に取り組むことができますか」については高く、「自ら主体的に行動する力が身についていますか」は低く評価している。「意欲的」を課題を与えられて活動に取り組む、「主体的」を「自ら」課題を探して活動に取り組むと考えると自分の夢や目標に向けてより主体的に取り組めるような課題を用意することが必要かもしれない。また、「将来に向けて自分の生き方を考えることができますか」の教員の評価が、生徒・保護者よりも高いことと併せて検討する必要があるのではないかと。                      ○上記①と同様、「生徒」の自覚を促す指導が必要。「保護者」のTA-2.2%は職員よりも高い期待を表している。                      ○社会に出て何がやりたいのかと具体的な事を描いている生徒さんは少ないと思いますので日々の進路指導の中で具体的に出来る事は行い、必要な知識習得を行う。                      ○他人と比較することなく、自分自身を見失わず生きていけるように力をつけていってほしいです。                      【保護者や地域との連携】                      ○「進路についての情報や相談は役に立ちましたか」については、生徒・保護者・教員共に高い(特にR5年度評価で高くなっている)。                      ○企業から見て「職員」は最善を尽くして居られ、自己評価(3.3、A)は妥当と考えられる。ただ令和4年度(3.4、A)より低下しているため、職員会議や「I on I」等で理由を再確認しても良いかも知れない。                      ○企業見学、実習の中で、色々な年代の方、働き方を体験する事が一番ではないでしょうか。                      ○企業の方と学校側の連携により、色々な場所で実習を行える事を今後も期待します。                      ○関係機関や企業との連携は十分にいただいていると思います。                      ○何事にも一生懸命に取り組もうとし、目標を立て、主体的に取り組んでいると生徒自身が感じられているのが素晴らしいと思います。改善方法として、進路指導部をはじめとする専門部担当者や企業の外部講師、卒業生を招待し、就労や卒業後のことについて話を聞く機会を作っておられるそうですが、生徒達が具体的に将来について考えることにつながるので大変良いと思います。</p>	<p>【生徒の生活習慣の向上】                      ・今後も全教員で生徒の小さな変化に気づく機会を作り、いつでも生徒から気軽に相談しやすい環境作りに引き続き取り組む。また、常時担任以外の教員も生徒情報を共有し、様々な学校や卒業後の生活場面で活かせる指導をおこなっていく。                      【生徒のキャリアプランニング】                      ・授業や行事で主体的・対話的な学びの視点での改善、生徒が発信する機会や自主的な取り組みができるよう、具体的に生徒自身が目標を立て、どんな方法で実践するのかまで共に考えるようにする。                      ・担任からだけでなく、進路指導部をはじめとする専門部担当者や企業等の外部講師、本校卒業生を招聘し、就労や卒業後の生活について具体的な見通しが持てる講話を聞く機会を作る。                      【保護者や地域との連携】                      ・今後も卒業後の就労や生活に関する情報を紙面やICT機器等で発信し、保護者や生徒からの相談に丁寧に応え、常に保護者・地域・学校が連携できる体制にしておく。</p>
	② 夢や目標をもち、自らの生き方を考え、具体の計画を立て、それに向かって進んでいくキャリアプランニング能力の育成を図る。	2.7	B	3.1	B	2.7	B			
	③ 関係機関及び企業等との連携により、職業実習、現場実習の充実と指導内容の改善充実を図る。	3.3	A							

<p>【ミッション】一人一人のニーズを把握し、持てる力を伸ばし高める教育を行う。                  ・社会の変化や生徒の障害の状態に応じた適切な教育的支援を行う。                  ・一人一人の実態やニーズに応じた多様な進路選択に努める。                  ・特別支援教育の専門性向上のため研修の充実を図り、地域における特別支援教育のセンター校としての 機能・役割を果たす。                  ・地域との交流、地域の学校との交流、国際交流などを通して本校教育活動の充実を図り本校のことを より知ってもらえるよう情報発信に努める。</p>	<p>A:3.2 ~ 4.0 《3.2以上 ピンク》                  B:2.4 ~ 3.2未満 《3.0以上 黄》                  C:1.6 ~ 2.4未満 《2.6未満 青》                  D:1.6 未満</p>
--	--

重点目標	実践目標	職員		生徒		保護者		自己評価(達成状況)	学校関係者評価(学校評議員より)	改善の方法
		自己評価結果	ABC評価	自己評価結果	ABC評価	自己評価結果	ABC評価			
(2) 専門職としての教職員の資質向上	④ 個々の実態把握に基づき生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて、適切な教育支援、合理的配慮の提供を行う。	3.0	B	3.4	A	2.9	B	<p>・各感染症流行は続いているが、生徒の感染状況確認や消毒や換気徹底により、従来通りの学校行事を展開することができた。教務部や支援部を中心に個別の指導計画新書式移行に伴う内容の見直しや生徒情報の共有を積極的に行った。そのことにより、教師が生徒たちを理解した対応ができるようになったことがこの評価の表れである。</p>	<p>【生徒の一人ひとりへの支援・配慮】                      ○「授業や行事において、適切な支援により、「わかった」「できるようになった」と感じたことがありましたか」の生徒の評価は高く、生徒は、一人一人に合わせた指導計画や配慮がなされていると感じられているのに対し、教員自らの評価は低い。教員が高い目標を掲げ、工夫しながら取り組んでいる結果と考えられる。                      ○「生徒」の自己評価(3.4, A)は、TA+12.8%と、先生が考える以上に、配慮されていると受け取っており、非常に好ましい傾向。一方「保護者」の評価(2.9, B)は、令和4年度(3.1, B)から下がっており、何らかの要因があるものと推察できる。この理由を掘り下げておくと、以降の職員研修の題材の参考になるかも知れない。                      ○授業や実習を見学させて頂く中ではよく目配りがなされていると思います。                      ○一人ひとりの状況に合わせた教育・支援ができてきていると思われます。                      ○新学習指導要領改訂に伴い、先生方も大変だったかもしれませんが、生徒の授業に対する信頼度が増していることが読み取れますので、効果も出てきているのだと思います。                      ○生徒様の個々の能力を見極めて伸ばすのは難しいので、その生徒らしく伸びてもらえば良いと思います。                      在学中は娘の出来ること、出来ない事に対して先生が対策をアドバイスしてくれたり、実践してくれたりとかたくさん支援がありとても助かりました。                      ○生徒情報の共有化が積極的に行われているのが良いと思いました。</p>	<p>【生徒の一人ひとりへの支援・配慮】                      ・個別の指導計画様式変更に伴い、自立活動の重点課題を明確にし、一人ひとりの実態と課題に応じた目標設定や手立て、評価ができるようにする。</p>
	⑤ 教職員の専門性の向上、指導力の向上をめざし校内研修の充実を図る。	2.7	B					<p>・新学習指導要領改訂に伴う3観点に基づく授業や評価改善のための研修会を実施した。本年度も生徒一人一台のiPadの活用で全教員が積極的に各教科で取り組み、授業や行事に対して生徒の前向きな姿勢を引き出す工夫が見られた。</p>	<p>【教師の専門性の向上】                      ○ひとり1台のiPadを導入したことにより、さらに個にあわせた指導等が可能になると考えられる。3年間を見通したシラバスの作成と共に生徒の成長段階を見えるかできる工夫があるとさらに良いのではないかと。                      ○「職員」の自己評価(2.7, B)は、令和4年度の(2.5, B)よりも改善しており、好ましい変化。生徒のみならず教職員にも引き続き、意図的に「学び」の機会を増やしていくと良いと考える。例えば、成長著しい「生成AI (ChatGPT)」の使い方を、まずは教職員が学び、生徒達に展開するなどもありか。                      ○iPadを使用している授業もされていますので、就職先の企業さんが必要としている事を知る機会があってもいいのかなと思います。                      ○引き続き、生徒一人ひとりの状況に応じた教育となるように研修等に取り組んでいただきたいと思います。                      ○学校全体として必要だと思うので、これからも力を入れていただきたい。</p>	<p>【教師の専門性の向上】                      ・共有した生徒情報に基づき各教科の3年間を見通したシラバスの作成を通して、卒業までにつきたい力を段階的に設定する。また、引き続きiPad等ICT機器の授業での活用方法を考察し最新の情報機器に関する研修計画を考察する。                      ・特別支援教育の視点から段階的な授業計画を立案、生徒一人ひとりの目標を明確にして卒業後の生活に活かせることを増やす。</p>
(3) 危機管理体制の構築	⑥ 火災避難訓練、地震避難訓練、不審者侵入時の対応についての研修、交通安全指導等を行い、生徒が自分の判断で安全に配慮できる能力の育成を図る。	2.5	B	3.3	A	2.5	B	<p>・生徒の危機管理能力の育成では危機を回避する方法を生徒の状況に応じた具体的な学びを実践することで理解を深めることができた。ただ、緊急時の判断力やSNSでのルールやマナー面について保護者の不安はあり、生徒・保護者の評価は依然として差がある。</p>	<p>【生徒の危機管理意識】                      ○安全に関しては、危機的な状況におかれてどのように行動できるかが問われているが、危機的な場面をどの程度「具体的に想像できているか」の差が現れているようにも思う。課題の提示の仕方に工夫が必要かもしれない。                      ○「生徒」の自己評価(3.3, A)は、TA+30.8%と、高過ぎる。これは生徒が各種リスクを「想定」出来ていないためと考えられる。「保護者」のTA-1.6%は、「生徒」の判断に対して更に厳しい認識を持っていると言える。社会人になり、詐欺の被害者になったケース、脅迫の加害者&amp;被害者になったケースもあり、具体的なリスクを、根気強く教えていく必要があると考える。                      ○避難、火災訓練等をより実践的に又、定期的実施し各生徒さんが自分自身で判断、行動できるようにする。                      ○家庭でも緊急時の避難場所や持ち物などの話をしますが、学校での訓練はとても役立つと思います。                      ○安全に対する認識は、生徒と教員・保護者の間にかなりの差が見られます。生徒には危機に対するイメージが具体的にない可能性があります。                      ○地震が起きたときに必要な危機管理意識について学びを深めるべきだと思います。</p>	<p>【生徒の危機管理意識】                      ・引き続き、命を守る大切さを機会あるごとに伝え、いざという時に一人で判断して行動できる意識を高められるよう、より具体的な訓練を繰り返し実施する。                      ・男女関係に関する学習を計画的に生徒に実施するとともに、保護者にも学ぶ機会を作る。                      【学校の危機管理体制】                      ・隣接する上野ヶ原特別支援学校との合同避難訓練を実施し、危機管理体制整備を行う。</p>
	⑦ 事件、事故、熱中症、情報漏洩等、あらゆる学校事故に対する教師の危機管理意識の向上を図り、安心・安全な学校づくりを進める。	2.6	B					<p>・感染予防のための指導を継続して実施、コロナ対応には寄宿舎を含めて全教職員で徹底した衛生管理をするなど危機管理意識の向上を図り、コロナ罹患者が出て迅速かつ適切な対応を行い、教育活動を止めることなく遂行することができた。</p>	<p>【学校の危機管理体制】                      ○また、インターネット上のトラブルに関しては複雑かつ多岐にわたる。既に実施されていることかもしれないが、具体的なケースを提示し、生徒自身がどのように判断する(行動する)か、を考えさせるなど、生徒自身が答えを探す活動が重要ではないか(保護者には生徒の理解について情報提供することで両者の評価の差が縮まるかも)。                      ○「職員」の自己評価(2.6, B)は、細かく見ると2.56→2.63と改善傾向にある。学校として様々なリスクを、事あるごとに「想定」している現れと考えられ、現在の取り組みを継続・発展させる事が望ましい。                      ○些細な変化に気づく又、報連相を行う事だと思います。今後、あらゆる危機に対して、具体的に認識できるように、映像やゲストスピーカーを利用する等、具体的にイメージしやすい工夫が必要だと思います。                      ○危機管理は起きないと理解できないのでわかりやすく単純に覚えていただく提案をしてほしい。                      ○何事も未然に防止できるよう日々対策をしていただき、安心して子供達が学校生活を送れるように願っています。                      ○SNSのトラブルは起きやすいと思います。ルールやマナー面での不安な事について保護者や生徒にアンケートを実施することでの学びを深める点が明確になるのではないかと思います。</p>	

令和5年度 兵庫県立高等特別支援学校 学校評価 自己評価と改善の方法

<p>【ミッション】一人一人のニーズを把握し、持てる力を伸ばし高める教育を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の変化や生徒の障害の状態に応じた適切な教育的支援を行う。</li> <li>・一人一人の実態やニーズに応じた多様な進路選択に努める。</li> <li>・特別支援教育の専門性向上のため研修の充実を図り、地域における特別支援教育のセンター校としての 機能・役割を果たす。</li> <li>・地域との交流、地域の学校との交流、国際交流などを通して本校教育活動の充実を図り本校のことを より知ってもらえるよう情報発信に努める。</li> </ul>	<p>A:3.2 ~ 4.0 《3.2以上 ピンク》                  B:2.4 ~ 3.2未満 《3.0以上 黄》                  C:1.6 ~ 2.4未満 《2.6未満 青》                  D:1.6 未満</p>
---	--

重点目標	実践目標	職員		生徒		保護者		自己評価(達成状況)	学校関係者評価(学校評議員より)	改善の方法
		自己評価結果	ABC評価	自己評価結果	ABC評価	自己評価結果	ABC評価			
(4)開かれた学校づくりの推進	⑧ 学校をよく理解してもらうために学校情報発信力を高める。	3.0	B					2.9	B	<p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ホームページで行事等の情報をリアルタイム配信するなど、保護者との情報共有並びに地域や他の人々への情報発信を行っている。日々の授業等、忙しい中でも今後とも是非、続けていただきたいと思う活動である。</li> <li>○安全に関しては、危機的な状況におかれてどのように行動できるかが問われているが、危機的な場面をどの程度「具体的に想像できているか」の差が現れているようにも思う。課題の提示の仕方に工夫が必要かもしれない。</li> <li>○「職員」の自己評価(3.0、B)に対し、「保護者」の評価(2.9、B)はTA-4.6%と、期待値の方が高い。学校のホームページは適宜情報更新されており、第三者から見ても妥当/十分と考えられる。ただ貴校はリンク先にPDFファイルを多用しており、スマホで見ると、ファイルをダウンロードする必要があることと、他校(西神戸)と比べて画像よりも文字情報が多いには思われ、「保護者」評価が辛めなのは、そういう感覚的な部分かも知れない。</li> <li>○ホームページやブログは興味のある人、又は関係者しかアクセスしないのではないのでしょうか。何か、普通に目に留まるような発信の方法も必要。年代により情報収集の媒体も違っていると思います。</li> <li>○ホームページやブログにおいて積極的に情報発信されていると思います。</li> <li>○入学を希望されている家族、生徒は多いと聞きます、これからもオープンキャンパスを開き理解いただきより分かりやすい学校方針を伝えられたら良いと思います。</li> <li>○卒業後もホームページやブログで情報を見て、子供と色々話すことがあるのでこれからも発信を楽しみにしています。</li> <li>○ブログもいいのですが、今はインスタを使う方が情報の発信力があるように思います。例えば、愛知県の春日井高等特別支援学校がインスタをされているので参考してみてください。</li> </ul> <p>【保護者・地域との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「お子様のことで担任や学年との連携は十分にとれていますか」についての保護者の評価は令和元年より一貫して上昇している。にも関わらず、教員自身の評価は厳しく、さらなる工夫やより良い連携を模索している様子がうかがえる。</li> <li>○「職員」の自己評価(3.1、B)に対し、「保護者」の評価(3.2、B)はTA2.2%と高く、学校側の努力・活動が伝わっているものと考えられる。</li> <li>○WEBの活用。記載にもありましたが地域の行事等への参加。</li> <li>○今後は、地域とのつながりも増えていけば尚よくなると思います。</li> <li>家庭(保護者)との連携も現在もすでにしっかりされているとは思いますが、それぞれの家庭(保護者)によって、希望される情報の種類や量が異なると思います。</li> <li>基本的には皆に同じような対応をすることが求められますが、状況によっては個別に対応されることが必要だと思えます。</li> <li>○担任の先生や奇宿舎の先生とも、何かあればすぐ連絡をとっていたので在学中は安心していました。</li> </ul>
	⑨ 学校と家庭、また学校と地域の連携を図り、信頼される学校をめざす。	3.1	B					3.2	A	